

2024



新クトゥルフ神話TRPG

シナリオコンテスト2024 佳作

こぼく 絶叫する古木

古びたエレクトリック・ギターの奏でる絶叫が、人々を狂気の渦中へと引き込んでいく……。

右原 異教



概要

2024年4月上旬、赤崎明生の最近購入したギターを自慢したいという呼びかけに応じた探索者はリハーサルスタジオに集まる。彼が購入したギター「スクリマイズ」にはアルワッサの叫び声による汚染を受けた木材が使われており、その音は探索者の不安をかき立てるような恐ろしいものであった。

月日は流れ9月、赤崎が動画サイトに新曲のミュージックビデオを投稿した。それは緑ヶ丘区で撮影された暴力行為の映像に気味の悪い曲調が乗った作品であった。連絡が取れない赤崎と直接会うべく探索者は緑ヶ丘区に向かうこととなる。

町中に響くスクリマイズの音によって暴力と不信が蔓延した緑ヶ丘区を探索する中で、過去にこのギターが引き起こした事件を知り、探索者は今起きていることの重大性に気づく。

そして探索者は区民館の音楽ホールにてアルワッサに魅入られ、かの魔物を招来しようとしている赤崎と対峙することになる。

舞台は2024年9月、架空の町、緑ヶ丘区。魔物からの恩寵を受けたエレクトリック・ギターの音色は町に混沌をもたらしている。緑ヶ丘の地に再び平穏を取り戻すため、探索者は悪しき音色の野望に終止符を打たなければならない！

Introduction

1. はじめに

このシナリオは“新クトゥルフ神話TRPG ルールブック”と“新クトゥルフ神話TRPG マレウス・モンストロルム

Vol.2 神格編”に対応しており、探索者2~4人向けにデザインされている。プレイ時間は探索者の作成を含まずに3~4時間程度だろう。

このシナリオではNPCへの聞き込みによる情報収集が多く、避けられない戦闘も発生するため、そういった場面に対応できる探索者で臨むとよいだろう。

また、探索者がミュージシャン、音楽好きであると探索者がシナリオの内容や展開について行きやすいだろう。

Keeper Information

2. キーパー向け情報

1970年、アメリカにあったとある個人経営の名もないギター工房が「Screamize (スクリマイズ、以下基本的にカタカナで表記する)」という1本のエレクトリック・ギターを作った。一見するとなんの変哲もない普通のギターで、使用されている木材も一般的なものだ。しかし、その木材の出自に問題があった。

その木材はアメリカのとある山中にある集落に生えていた木から取られたもので、その集落ではかつてアルワッサ(“新クトゥルフ神話TRPG マレウス・モンストロルム Vol. 2 神格編”37ページ参照)と定期的に交流するような信奉者たちが暮らしていた。長きにわたってアルワッサの叫び声を浴びせられ続けたその木は汚染されてしまっていたのだ。

ただの木、あるいは木材の状態であればなんの問題もないのだが、音を発するギターとなれば話は別である。その音色には人間の精神をむしばむアルワッサの叫びが含まれているのだから。

立派な呪物、アーティファクトであるスクリマイズは売り出されてから現在にいたるまでさまざまなオーナーの手に渡っていった。そのほとんどはギターから発せられるアルワッサの叫びによって正気を失ったことで自殺をしたり、アルワッサにその身をささげたりとろくでもない末路をたどってしまった(まるで呪いのいす、バズピースチェアのようなだ！)。

そして現代、探索者の友人でミュージシャンの赤崎明生

は偶然にも中古楽器店にて安値で売られていたスクリマイズを購入してしまう。

赤崎はスクリマイズの見た目や音に魅了され演奏し続けた結果、アルワッサの叫びの影響を受け始め、より演奏にのめり込んでいくようになってしまった。

アルワッサは自分の叫びを必死にかき鳴らす赤崎を熱心な信奉者と見なして接触し、力を授け、自らの飢えを満たすために暴力にあふれた世界と供物を用意するようにそのかした。

赤崎が住んでいる緑ヶ丘区みどりがおかの住民たちもスクリマイズから発されるアルワッサの叫びの影響で暴力的になり、区内の犯罪件数が増えている。対応すべき地元警察も影響を受けているため治安の回復は難しい。

緑ヶ丘区に暴力と混沌が蔓延し、赤崎はいよいよアルワッサを招来するための本格的な準備に取り掛かる。もしもアルワッサが完全に招来されれば緑ヶ丘区は確実に破滅へと向かっていく。探索者はこれを阻止しなければならない。

Investigator Information

3. プレイヤー向け情報

このシナリオの探索者には赤崎明生という友人がいる（キーパーは詳細な情報について「4. 主なNPC」を参考にプレイヤーに提示してやるとよいだろう）。

赤崎と探索者がどのような関係か自由を決めてもよいが、彼が探索者にとってかけがえのない友人であり、困っていることがあったら力になってやりたいと思えるような存在だと、探索者も事件の解決に対して前向きになるだろう。

探索者の年齢や職業に指定はないが、激しい〈正気度〉ロールがあるため、POWの値が低すぎる探索者で遊ぶのはリスクが高いだろう。

また、探索者が住んでいる地域は赤崎が住んでいる緑ヶ丘区から遠いほうが望ましい。

NPCs

4. 主なNPC

あかさきあきお 赤崎明生

25歳男性。フリーターをしながらソロのミュージシャンとして活動している。好きな音楽ジャンルはシュゲイザー。

中古楽器店で手に入れたスクリマイズの音色によって狂気に陥り、さらにアルワッサと接触してしまったことでの魔物の信奉者となり、緑ヶ丘区に混沌をもたらすようになってしまった。

容姿の描写：細身の高身長で長髪。タイトフィットで派手な柄の服装を好む（現在はより細く痩せこけ、手入れをせず伸ばしっぱなしの髪の毛とひげは不潔さを感じさせる）。

特徴：音楽好きでノリがよく人懐っこい性格（現在は暴力的でアルワッサを盲信したような発言しかない）。

STR 50 CON 40 SIZ 85 DEX 80 INT 60
APP 65 POW 90 EDU 50 正気度 10 耐久力 12
DB: +1D4 ビルド: 1 移動: 7 MP: 18 幸運: 30

近接戦闘（格闘）25%（12/5）、ダメージ1D3+DB
回避 40%（20/8）

技能：機械修理 30%、聞き耳 50%、芸術/製作（ロック）55%、変装 45%、魅惑 65%

Get Starting

5. 導入

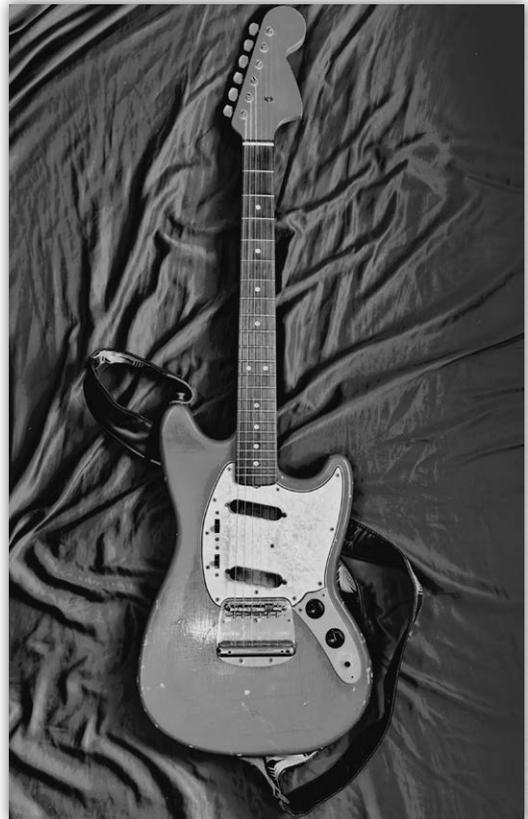
2024年4月上旬、探索者たちは新しく買ったギターを自慢したがっている赤崎の呼び出しに応じて都内にあるリハーサルスタジオに集まっている。

赤崎は昨日買ったばかりだというギターを黒くて長方形のハードケースに収納して持ってきている。ケースは彼によれば購入時に付いてきたもので、ギターのほかに保証書や前のオーナーが書いたというノートも入っていたらしい。

ギターは試奏のときに少し弾いただけで、まだしっかりと大音量で弾いていないという。せっかくなら友人と一緒に楽しみたいとのことだろう。

赤崎は探索者との雑談を楽しみながらギターのチューニングとエフェクター（ギターの音にゆがみや響きなどの効果を足す機材）とギターアンプ（ギターの音を増幅させる機能とスピーカーが一体になった機材）を手際よくセッティングしていく。

赤崎が買ったというギターは赤色に塗装された少し小ぶりなエレクトリック・ギターである。音楽に関する知識がある探索者なら、その形状やスペックが大手楽器メーカー



のギターにそっくりであることがわかる。小柄でかわいらしい見た目をしているが、弦の張り具合を激しく変化させるピブラートの機能が特徴で、使い方によっては派手なサウンドを生み出すことができる（ただしうまく調整しないと一瞬でチューニングが狂ってしまうじゃじゃ馬だ！）。

詳しく見てみれば塗装には独特な塗装のヒビ割れ、ネックには黒ずみやすれた跡、ボディには引っかき傷や打ち痕があるなど、一目で古いものであることがわかる。楽器に関する技能か〈鑑定〉のロールに成功すれば、これらの劣化した部分は加工されたものではなく、本当に長い年月を経たもので、ビンテージ品だということがわかる。

ヘッドに書かれているのは製品名と思われる「Screamize」の文字だけだ。これについてインターネットで検索してもまったく情報がない。

赤崎がそのギターで早速1曲弾き始める。友人である探索者ならば聴いたことのある曲だ。

ギターが変わったことによるものか、その演奏はいつもよりも重々しく、暗く、鳥肌が立つほどに不安な気持ちがかき立てられるものだった。「ギターが激しく非道徳な罵詈雑言を叫び訴えかけてきている」、探索者はそんな感想を抱くかもしれない。

赤崎も熱が入ったように、ギターをかきむしるようにピッキングし、額に脂汗をかきながらも自分の演奏に酔いしれた表情をしている。

演奏を終えたあともしばらく探索者の心には言いようのない不安が残る。鳥肌もまだ収まらず、あの叫びが頭にこびりついているような感覚だ。この演奏を聴いた探索者は0/1D2正気度ポイントを失う。

以下は赤崎との雑談の中で語られるものである。

- 都内にある中古楽器店で見つけた。知らないメーカーだが、見た目も有名なメーカーのものとそっくりで、1970年代くらいに作られたビンテージらしい。
- ビンテージであることは確かだが、店員も詳細がわからないため無名メーカー品ということでも5万円と安かった（ビンテージ・ギターの価格は製造年代や状態によりさまざまだが5万円はなかなか破格である）。
- 試奏したときにほかのギターにはない気味の悪い音を感じた。その不穏な雰囲気も曲に生かせるのではないかと思い、購入を決意した。
- (同梱していた書類とノートについて) 書類は購入した中古楽器屋の保証書で、ノートは英語で書かれていてよくわからなかった。古い海外の記事がいくつか貼り付けられていた。今日は持ってきていない。
- (今の演奏について) 不安定な気持ちになるが、そういうものをすべて込めて弾けば、演奏に気持ちが乗る感じがして楽しい。
- (このギターを弾くのはやめたほうがよいのではないかと) 安く買ったとはいえ5万円も使ってしまったし、初めてのビンテージ・ギターで愛着が湧いてしまった。しばらくはこのギターを使おうと思う。

探索者がスクリマイズで演奏するならば、曲調やサウンドメイクによらず、先ほどと同じような印象を覚えるし、

同様の〈正気度〉ロールが発生する。スクリマイズが奏でる不安な音に慣れることはない。

また、録音したスクリマイズの音を聴いても〈正気度〉ロールは発生する。探索者が楽曲編集に詳しい場合、録音した音の周波数特性を視覚的に確認するかもしれないが特別な異常は認められない。せいぜいビンテージ・ギターらしく豊かな高次倍音を含んだ特性だなど感じる程度だ。

キーパーへの注意:スクリマイズに含まれるアルワツサの叫びは人間が聞き取れる周波数の範囲外にあるため、実際にその音自体が明確に聞こえることはない。また周波数に関して、マイクの録音能力や再生機器の再生能力に限界はあるがアルワツサの叫びはわずかであっても確実に録音され、そして再生されるため聞いた者に影響を及ぼす。

周波数特性を調べた際に見える倍音の中にアルワツサの叫びが紛れているが、それが異常なものだと認識することは極めて難しいだろう（この手の検証に特化した技能ロールでイクストリームの結果を出さないかぎり）。

ギターについて調べたり雑談をしたりしているうちにあつという間にリハーサルスタジオの時間枠が終了する。

赤崎は早く帰ってまたギターを弾きたいと言って、その日はあつけなく解散となる。

Unusual Phenomenon 6. 赤崎と緑ヶ丘区の異変

次のシーンは導入であるリハーサルスタジオに集まった日から約5か月たった9月となる。

その間、探索者と赤崎にこれといった交流はなく、探索者側から連絡しても「制作に集中したい」とそっけない返答をされるだけだった。

赤崎はスクリマイズを用いた楽曲制作に夢中になっている中で狂気に陥っていき、そしてアルワツサと接触してしまった。彼は魔物の願いをかなえるためにスクリマイズの音をまき散らし、緑ヶ丘区の人々を狂気へと誘い込んでいた。

赤崎の新曲

2024年9月3日。9月になってもしつこく暑さが続き、騒々しいセミの声がまだ夏は終わっていないことを告げる昼のこと。探索者と赤崎によるメッセージアプリのグループにリンクが送られてくる。リンクの先は赤崎の新曲ミュージックビデオのようである。

楽曲のタイトルは「声の解放」だ。その曲は彼が普段作っているものよりも重苦しく、より激しい曲調となっている。そしてその曲を聴いた探索者はリハーサルスタジオのとき以上に不愉快な気持ちになるだろう。スクリマイズの音を聴いたときのあの感覚が、より明確で悪辣あくらつになったもので、聴いているだけで鈍い頭痛がしてくる。

歌詞もいつもならば過去の恋愛や失敗をネタにしたものだったが、今回の新曲に関しては何について歌っているの

かがまったくわからない意味不明なものとなっている（プレイヤー資料1「声の解放の歌詞（サビ部分）」参照）。

ミュージックビデオの映像はさらに奇妙で、恐ろしいものであった。それはスマートフォンで撮影されたと思われる映像を淡々とつなぎ合わせただけの簡単なものだが、その映像のほとんどは人と人が暴力的に争っている様子を映したもので、流血しているシーンまである。

映像をよく見ると背景に映り込んでいる電柱や看板広告などに書かれている地名は、赤崎が住んでいる緑ヶ丘区であることがわかる。

暗い曲調、意味不明な歌詞、暴力的な映像、そして何よりも頭痛を引き起こすほどの嫌悪感をはらんだこのミュージックビデオを視聴した探索者は1/1D4正気度ポイントを失う。

赤崎は無名なミュージシャンであるため、ミュージックビデオの再生回数はまったく伸びていないが、探索者はこんな動画は大衆の目に触れるべきではなく、即刻削除すべきだと感じるだろう。

赤崎との連絡

電話をかけても応答する様子はない。ただ、メッセージアプリで文章を送った場合はしばらくしてから「あのノートに書かれていたことは本当のことだったみたいだ」、「今日、おれもこの街も魔物にささげる。じゃあな」とだけ返され、以降は返信がない。

赤崎の最近の動向

SNSなどで最近の赤崎について調べても変わったところはなく、強いて言えば、リハーサルスタジオで会った日に「my new gear……」という一文にさまざまなアングルから撮影されたスクリマイズの写真を添えた投稿がされていることくらいだ。これは一部のミュージシャンが新しい機材を購入したことをSNSで報告する際に用いるお約束のようなものだ。

動画の削除申請

探索者は赤崎のミュージックビデオを削除するよう、動画サイトの運営に報告するかもしれない。

しかし報告者が探索者だけであるため、すぐに削除されるようなことはないし、なんなら報告を無視されてミュージックビデオが残ることも十分にありうる。

最も確実にミュージックビデオを削除する方法は赤崎自らの手でやらせること、あるいは探索者が赤崎のアカウントにアクセスして無理やり削除することだろう。

緑ヶ丘区について

赤崎が住んでいる緑ヶ丘区は神奈川県川崎市西部にある小さな町である。自然が豊かな緑地公園、閑静な住宅街、図書館をはじめとしたさまざまな施設が一体になった区民館などがあり、静かで治安も悪くないため、住みよいベッドタウンといった町である。

最近の緑ヶ丘区に関するニュースを調べると、まだ大規

声聴いて
むき出しの命 乱れて
声聴いて
浮き立つ生きとし 乱れて
いちばん暗い夜で いちばん暗い夜で会おうよ

（絶叫する古木 プレイヤー資料1「声の解放の歌詞（サビ部分）」）

模範報道こそされていないが、だいたい2か月ほど前から事件が起き続けていることがわかる。事件の内容は強盗、強姦、乱闘、器物損壊などさまざまだが、そのどれもが暴力性を含んだものだ。

いくつかの事件の犯人たちは犯行理由について「最近いらいらして気が立つようになり、その鬱憤を晴らすために」、「なぜそんなふうになるのかについて思い当たる節がない」といった共通の発言をしている。これについて「緑ヶ丘区では何らかの理由によって集団ヒステリーが発生しているのではないか」といった見解を示している記事もある。

また、悪化した治安について「警察はパトロールなどの対策を強化すべきだ」と希望する声や、「警察が怠けているからこのようなことが起きる」といった批判の声が上がるなど、地元警察に対する注目も集まっている。

キーパーへの注意：赤崎がアルワッサに魅入られたことで、彼が持っているスクリマイズはアルワッサ自身の叫びと同等の力を持つようになった。

スクリマイズが発する叫びはおおよそ半径1.6kmの範囲まで響き渡り、その影響で人々は暴力的になっているのだ。

アルワッサが望む暴力にあふれた世界を作るために、赤崎は日夜スクリマイズを弾き続け、さらに効率的にアルワッサの叫びを届けるために、自宅のスピーカーから絶え間なく録音したスクリマイズの音を鳴らし続けているのだ。

そのため、緑ヶ丘区にいるかぎりには常にアルワッサの叫びを受け続けることになる。

Midorigaoka Ward 7. 緑ヶ丘区に到着して

今の緑ヶ丘区は赤崎の部屋で再生され続けているスクリマイズの音によって、探索者は常にその影響を受け続ける危険な状態にある。

音を止めるまで、探索者は緑ヶ丘区内の活動が1時間たつたびに1D2正気度ポイントを失う。もしも気を休めたい場合にはこの町から離れて休息するのがいいだろう。

神奈川県川崎市西部に位置する緑ヶ丘区は豊かな緑と住宅が程よく調和された小さな町だ。探索者も赤崎の自宅で遊ぶために何度か訪れことがあるだろう。

一見すると変わったところはなく、目の前の風景と記憶

の中にある風景とに相違がないように感じる。

しかし、緑ヶ丘区に降りた探索者はすぐに鈍い頭痛と吐き気に襲われる。スクリマイズの音は聞こえないが、あの音を聴いたときの感覚がより濃厚な形で襲いかかってくる。探索者の心に強烈な不安と意味のない怒りが渦巻き始める。〈正気度〉ロールを行ない、失敗した場合はただちに1D6正気度ポイントを失う。

そして、探索者は町が妙に静かだと感じる。一般的な環境音は聞こえてくるが、探索者の住んでいる場所ではあんなにもうとうとしく鳴いていたセミの声が一切聞こえないのだ。

あたりをしばらく歩き回ってみればセミどころか、猫も、スズメも、果てはカラスすら見当たらないことがわかる。人間以外の生き物の気配が一切ないのである。

キーパーへの注意：アルワッサの叫びは人間が知覚できる周波数の範囲外の音だが、動物たちはその音をしっかりと知覚できてしまい、警戒して緑ヶ丘区から逃げてしまったのだ。聴覚がない虫たちもアルワッサの叫びを振動として感知している。

Akasaki's House

8. 赤崎の家

赤崎の家は緑ヶ丘区内にあるアパートの一室である。

アパートは鉄筋コンクリート造りの3階建てで、赤崎が住んでいるのは1階の角部屋、101号室だ。部屋の鍵は開いており、簡単に侵入することができる。

探索者が玄関扉を開けるとギターが聞こえてくる。録音したものをループして再生しているようだが、この音が聞こえてきた瞬間に探索者が緑ヶ丘区に来てからずっと感じていた頭痛や吐き気はさらに激しいものとなり、0/1D3正気度ポイントを失う。

かつておしゃれな部屋を目指して丁寧にコーディネートされた部屋は、今は見る影もなくなってしまっている。

暗い部屋の床にはあらゆるゴミが散らかり、いくつかの家具は無造作に倒れ、タンスの引き出しは引っ張り出されたままだ。そして肝心の赤崎の姿はない。

この部屋で探索者の気を引くのは不愉快なギターの音を垂れ流し続けるスピーカーとそれにつながられているノートパソコンが置かれたデスクと、スクリマイズが収められていたギターケースだ。

デスク

デスクの上にあるのはノートパソコンとスピーカー、鍵盤、その他音楽関係の機材とカレンダーである。

ノートパソコン

不愉快な音を流し続けている原因であるノートパソコンは当然電源がつけばなしで、音楽再生用のアプリケーションだけが立ち上がっている。現在再生されているのは適当な名前が付けられた音声ファイルだ。再生を停止すると徐々に探索者を襲っていた頭痛や吐き気は和らいでいく。

キーパーへの注意：探索者が音声ファイルの再生を停止した時点で1時間経過ごとの正気度ポイント喪失はなくなる。

動画サイトにアクセスするならば、そのまま赤崎のアカウントでログインすることができる。探索者が望むならば「声の解放」のミュージックビデオを削除し、動画による被害拡大を阻止することができる。

さらに用心深い探索者がノートパソコンの中にあるスクリマイズの音が録音されていそうな音声ファイルのすべてを削除したいというならば、それも可能である。

カレンダー

その日の月相(月の満ち欠け)が紹介されている卓上カレンダーである。今日の日付、9月3日の場所に赤ペンで荒々しくチェックされている。今日の月相は新月だ。

キーパーへの注意：「声の解放」の歌詞にある「いちばん暗い夜」というのは新月のことを示しており、赤崎は新月の今晚にアルワッサの招来を決行しようと計画している。

ギターケース

赤崎がリハーサルスタジオにスクリマイズを入れて持ってきたギターケースだ。黒い長方形のハードケースで、よくよく見てみればスクリマイズほど古いものではなく、前のオーナーが使っていたものと察することができる。

ケースの中にスクリマイズは入っておらず、代わりに保証書とノートが入っている。赤崎がスクリマイズを購入した際に同梱していたと言っていたものだ。

保証書のほうは特に変わったところはない。ノートは赤崎が言っていたとおり手書きの英字が書かれており、古い新聞の切り抜きがいくつか貼り付けられている。

英語が堪能な探索者(技能値50%以上)であれば1時間程度でノートを難なく読むことができる。英語を読めない探索者でもAIによる翻訳などの補助があれば3時間程度で読むことができる。〈英語〉ロールに成功すれば読むために必要な時間を短縮できてよいだろう。

ノートの書き手は前オーナーで日本在住のアメリカ人、ボウル・ジョンソンで、彼は病床でこの手記を書き、自分の死後、スクリマイズを売る際はこの手記を同梱しろと妻に言い伝えていたらしい(プレイヤー資料2「ボウル・ジョンソンの手記」、プレイヤー資料3「古い新聞記事の切り抜きより抜粋」参照)。

探索者は切り抜きの記事に書かれている過去の事件は、まるで自分たちが今遭遇している出来事の未来を予言しているかのようであり、同じ末路をたどるかもしれない、そしてその命運は自分たちに託されてしまったことを自覚せざるをえない。探索者は破滅的な未来への不安と突然背負わされた責任によって身体から血の気が引いていき、1/1D3正気度ポイントを失う。

君が購入したのは幸か不幸か本物のいわくつきのギターだ。このギターを弾く者は本人のみならず周囲に不幸をもたらすという話がある。その实例に関する新聞記事をこのノートに添付しておく。

私は楽器奏者ではなく、ただの骨董好きだったため、このギターを弾いたのは数度程度だ。しかし弾くたびに確かな違和感を覚え、過去の出来事もこいつの仕業だったと確信した。

このような呪物をこの世に残しておくべきなのには非常に悩ましい。もうこれ以上不幸が起きないように処分すべきなのだが、世にも珍しい真の呪物を私の手で消し去るのはためらわれる。

そこで、君に判断を託したいと思う。勝手な話だが私には決められない。申し訳ない。

本音を言えば私はやはり処分することは惜しいことだと思っている。おそらく妻がこのギターを売り払うのはこの国の店か人間だろう。それなのに私がわざわざ母国の言葉でこの手記をつづっているのは、この言葉が理解できない人間の手に渡ってくれたらいいと思っているからだ。

ああ、どうか、君がこの手記を読まない人でありますように。

(絶叫する古木 プレイヤー資料2「ポール・ジョンソンの手記」)

Investigation

9. 聞き込み調査

以下の聞き込みで得られる情報のいくつかはキーパーが適当だと思えば入手できる場所を変更してしまってもかまわない。早く進行させたいなら一箇所から多くの情報が出るようにしてもよいし、不機嫌な住民たちとの交流を楽しませたいならば情報の出所を分散させてしてしまってもよい。

また、緑ヶ丘区で暮らしている住民は共通してアルワッサの叫びの影響で慢性的な不快感や頭痛と吐き気に悩まされている。それらについて尋ねれば「病院で検査しても身体は健康だとしか言われず、治療方法がなくて困っている」と回答する。

アパートの住民の話

アパートの住民たちは特に強くアルワッサの叫びを受け続けていたため、ひどく気が立っている。彼らから話を訊くためには任意の交渉に関する技能ロールに成功する必要がある。それらと〈精神分析〉や〈心理学〉で組み合わせロールをするのであれば、プレイヤーはボーナス・ダイス1つを受け取ることができる。

技能ロールに成功した場合、アパート住民は以下の項目のすべてを話してくれるが、失敗した場合は4番目の項目のみ話し、途中で怒って叫びながら会話を終了する。

プッシュ・ロールに失敗した場合、玄関扉をわずかに開けて、探索者がのぞき込んできたところに殺意のこもった

1971年11月 アメリカ

フロリダ在住ミュージシャン、トミー・レイヴンの自叙。

トミーは亡くなる数か月前から暴力的な言動や行動が目立つようになっていた。彼は酒やドラッグとは縁遠い生活を送っていたため、それらが原因であるとは考え難い。

トミーはいつも、暴れたあとに「ギターがおれにそそのかすんだ」意味不明な言い訳をよくしていたらしい。

記事にはトミー・レイヴンがスクリマイズを持っている写真が添えられている。

1982年10月 イギリス

サウス・ヨークシャーの小さな村の集団死亡事件。

サウス・ヨークシャーの市街地から離れた場所にかつて存在していた、農業を営む名もない村(おそらくある一族の集合だろう)から一晩のうちに人がいなくなり、近くの丘の上にて村人のものと思わしき欠損した遺体が複数見つかった。損壊の具合から野生生物の仕業と見られている。

村に友人がいたという人物によると、半年前くらいから村の雰囲気暗く、みんな気が立っていたという。

閉鎖的な村に嫌悪感を抱いていた友人はいつも村の中で赤いエレクトリック・ギターを弾いては、「こいつを弾くとみんなげんかするんだ。ざまあみろ」と言っており、そのギターの音は確かに不気味で、自分もその音を耳にすると言い知れない不快感と怒りが込み上げてきたとも言う。

(そのほかにも原因不明の集団失踪事件や自殺、暴動に関する切り抜きがある。そのどれもがスクリマイズを想起させるような記述や写真がある)

(絶叫する古木 プレイヤー資料3「古い新聞記事の切り抜きり抜粋」)

パンチを放ってくる。探索者は1D3ポイントのダメージを受ける。

彼らは常に大声で、怒るように探索者と話す。

- もともとは気のいい青年で、漏れ聞こえてくるギターの音も芸術的だったため、それに関して文句を言うことはなかった。
- 春頃からずっと引きこもってギターを弾いていた。昼夜問わず弾いており、ギターの音も以前と違い頭痛がするほど不快で忌々しく感じ、迷惑だった。管理会社に苦情を入れたが受け入れてもらえなかった（今みたいに怒鳴るように話すから悪質なクレマーのように扱われてしまっているのだ）。
- 漏れ出てくる音に我慢できないときは耳栓やイヤホンをするようにしている。不便だが多少はマシになる。
- 以前とは別人のようにみすぼらしい姿になっており、最近はずいぶん赤いギターをケースにも入れずに持ってどこかへと出かけていっている。

警察の話

警察署、交番どちらであっても同様の話が聞ける。

どこであれ、どの警察官であれ、常に職務用のスマートフォンから大音量でラジオや音楽やらを流しており、近くにいる警察官もとがめないどころか同様のことをしている。

警察官もほかの住民同様にアルワッサの叫びの影響によって常に不機嫌だ。いちおう職務中であるため訪ねて来た探索者への応対はするが、極めて横柄な態度をとる。ただでさえいらついているのに、世間からの期待や批判などのプレッシャーでさらに気が立ち、職務も適当になっているのだ。

- (連続している事件について) 何が原因かわからない。元凶についてどれほど調査しても出てこない。ダルすぎる。
- (ラジオや音楽を流していることについて) こうしていると気が紛れる。できることならイヤホンを着けたいが、いちおう職務中だから我慢してやっている。
- (特徴や写真を提示したうえで赤崎について) 最近緑ヶ丘区民館の目の前でギターと小型ギターアンプを携え、無許可で路上ライブをしている。取り締まるのも面倒な上に演奏を聴いているとさらにいら立つため関わらないでいる。

緑ヶ丘区民館

緑ヶ丘駅のすぐ側にある社会教育施設である。

誰でも無料で利用できる図書館や会議室、体育館、児童室、ギャラリーなどがあり、貸し出しは有料になるが音楽ホールもあるなど豪華な施設である。

緑ヶ丘区民の憩いの場、交流の場でもある緑ヶ丘区民館はいつもならば平日昼間であったとしてもそこそこの数の利用者がいるが、今は閑散としている。どの場所にも職員以外の人間はおらず、利用するために事前予約が必要な会議室や体育館などに一切の予約が入っていない。

ただ、音楽ホールに関しては今夜の21時から予約が入っている。職員は予約者の情報は教えてくれないが、演奏会のようなイベントではなく個人的な利用目的のものだと言う（もちろんいらついた様子で、だ）。

探索者がさらに職員から話を聞き出したいのであれば、

アパート住民のときと同様の技能ロールが必要だ。ロールに成功したならば、予約者の名前は言えないが赤いギターを持った不潔そうな男だったということだけ教えてくれる。

緑ヶ丘区の住民の話

その辺にいる緑ヶ丘区の住民からも話が聞けるだろう。ただし、住民たちもやはり常に不機嫌で、治安悪化によって他人に対する警戒が強いので、見ず知らずの人間である探索者が話を聞くためにはアパート住民のときと同様の技能ロールをする必要がある。

プッシュ・ロールに失敗した場合は胸倉をつかまれたり、ひどい場合は殴り合いに発展したりする可能性がある。

成功した場合は以下のすべての項目について話す、失敗だった場合はキーパーが適当だと思う項目について話すと「もういいだろ」といった具合に逃げるようにその場から離れていく。

- (連続事件について) 当然だが恐ろしいことである。多くの人は外出を日中に済ませて、夜はなるべく出歩かないようにしている。
- (特徴や写真を提示したうえで赤崎について) 少し前から緑ヶ丘区民館前で見かける。不潔な身なりで気色悪い曲をずっと弾いていて不快だし、あの音を聴いていると頭痛がひどくなる。夜中に出かけたくない理由の一つになっている。
- 最近ギター男は閑古鳥が鳴いている区民館に出入りしているらしい。何の用事かは知らないが、友達の間では音楽ホールでワンマンライブでもやるんじゃないかと笑い話になっている。

For Climax 10. 終盤に備えて

9月3日の21時、赤崎が緑ヶ丘区役所の音楽ホールにいたことがわかった探索者は、これから起きる出来事に対する準備を始めるだろう。

もしも武器になるようなものが必要ならば、それを調達してもよいし、区外で休息し、不定の狂気の「1日」を更新できたことにしてもよいだろう。

アルワッサの叫びへの対策

住民たちの話から「聴覚を遮断すればスクリマイズの影響を受けないのでは」という発想を得た探索者は対策方法として耳栓やイヤホンを用意するだろう。

実際にこれは効果があり、アルワッサの叫びを妨害する役割を果たす。詳しくは「12. 声の解放」にて後述する。

また、聴覚を遮断することが本当に効果的なのかを調べたいのであれば、赤崎の部屋にあるスクリマイズの音を録音した音声ファイルを使うのがよいだろう。

何らかの方法で聴覚を遮断した状態で該当音声ファイルを再生した場合、妙な感覚はあるものの不快感や身体の不調がひどくなるようなことはないことがわかる。聴覚を遮断せずに再生した場合は当然〈正気度〉ロールが求められる。

Midorigaoka Community Center

11. 夜の緑ヶ丘区民館

夜の緑ヶ丘区はしんと静まっている。人がいないわけではないが、日が暮れた頃には理由もなくその辺をほつつき歩いている人などはない。夜に出歩いている人のだいたいは仕事帰りといった感じだ。

そして緑ヶ丘区民館はまで来れば人ひとりも見かけなくなる。まだ21時だというのにもかかわらず、まるで深夜の時間帯かのような静けさを探索者は感じるだろう。

音楽ホールのエントランスの受付には職員が一人だけいる。このまま行けば侵入を止められてしまうだろう。探索者は以下の方法で侵入することができる。もちろんこれら以外のユニークな方法があってもよい。

- **交渉する**：最もシンプルで平和的な解決法である。それらしい理由を説明し、交渉で使えるような技能ロールを行なう。ここでも〈精神分析〉や〈心理学〉との組み合わせロールをする場合ボーナス・ダイス1つを受け取る。
- **力で抑え込む**：この町の命運は探索者に委ねられており、探索者にこんなところでまごついている暇などない。いっそのこと、この町のはやりに乗っ取って襲いかかってしまえ！ 職員は油断しており、探索者の奇襲は成功する（「新クトゥルフ神話TRPG ルールブック」102ページ参照）。
- **強行突破**：これといった手段が思い浮かばない場合、最終手段として無理やりに押し通るしかない。探索者は難なく音楽ホールまで行くことができるが、職員はこの後、探索者にとって邪魔な存在となる。

Emancipation of the Voice

12. 声の解放

約1,000人を収容できる音楽ホールは、映画館をより大きくしたような空間だ。探索者が今入って来た入り口はホールの最後部で、そこから正面のステージまで下りの傾斜が続き、座席がずらりと備え付けられている。

そして、ステージの上には赤崎がいる。伸び切った髪とひげで、薄汚れておしゃれさのかけらもない衣服をまとい、赤いギター、スクリマイズをストラップで肩から掛けている。

赤崎の前にはスタンドに据えられたボーカルマイク、かたわらには小型ギターアンプとその音を收音するためのマイクが設置されている。

探索者が赤崎に対して文句や説得を試みても「黙れ！」「なんで来たんだ！」「死にたいのか！」などの暴言を吐くばかりで取り付く島もない。いくつかのやりとりをしたのち、彼は「黙っておれたちの叫びを聴け!!!」と叫ぶとピックをスクリマイズの弦へと振り下ろし、「声の解放」の演奏を始める。キーパーは以下の文を読み上げる。

かきむしるようなピッキングによって弾かれた鉄弦の音が音楽ホールに備え付けられた音響機器を通してホール全体に鳴り響く。醜くゆがんだ音はギターの音には聞こえない。これは演奏ではない、これはもはや「音楽」ではない。狂気の獣の絶叫だ。

赤崎の後ろに薄ぼんやりと巨大なシルエットが現れる。脂ぎった黄褐色の肉の塊のようだが、脈動し、頭部のようなものまである。しかしそこに顔はない。ただ、大きな穴が開いているだけのように見えるが、探索者は自然とそれを口だと認識し、そうだと思うとその口は赤崎のギターに呼応するように動いているのが見えた。

探索者は今までスクリマイズに感じていた不快感の根源がそいつだということを感じ取る。そいつからはスクリマイズの音と同質でありながら身体が震え上がるほどの邪悪で醜悪な気配が放たれていたからだ。

人類の知識や道徳の埒外からやって来た魔物、声なく叫ぶものを目の当たりにした探索者は1D6+2/3D6+2正気度ポイントを失う。

演奏は中止だ！

ここからは戦闘ラウンドで処理を行なう。

またこのシーンで狂気に陥った探索者はアルワッサの影響により暴力的な思考に支配され、赤崎を殺すことしか考えられなくなる。

探索者の勝利条件

探索者の勝利条件は「赤崎が演奏できない状態にすること」である。これは彼からスクリマイズを奪うか破壊する、または彼自身を組み伏せたり、失神させたり、あるいは殺害したり、とにかく演奏が続行できない状況にすることだ。どのように解決するかは探索者しだいである。

探索者の行動

赤崎に対するアクションを取るためには彼の近くまで行かなければいけない。ただ、探索者が現在いる入り口からステージまでは40mあり、狭い座席間を通らなければならないため、MOV 8なら2ラウンド、MOV 7以下なら3ラウンドかけて移動することとなる。

赤崎の行動

赤崎は回避や応戦を行なわない。ただ、毎ラウンドの最後に強烈なピッキングによってアルワッサの叫びを含んだ爆音を放つ。その場にいる探索者は1D4ポイントのダメージを受け、さらにハードのPOWロールに失敗した場合1D2/1D6正気度ポイントを失う。

以下はアルワッサの叫びに効果のある対策の例である。ほかにもユニークなものを見つけるためにプレイヤーとキーパーは話し合ってみてもよいかもしれない。効果の程度はキーパーの裁量によって変更してしまってもかまわない。

- **耳栓 (POWロールに変更)**：オーソドックスかつ簡単な対策法だ。手で耳を強くふさぐことでも同程度の効果は得られるだろう。
- **イヤホン (POWロールに変更し、ボーナス・ダイス1つないし2つを受け取る)**：これも手軽かつ効果的だ。ただ耳に入れているだけでもよいし、音を流すことでより高い効果を得られるだろう。キーパーは「ノイズキャンセリング機能があればさらに効果があるかもしれない」と提案してみてもよいだろう。
- **大きな音を出す (POWロールに変更)**：自ら全力の雄叫びを上げたり、楽器を鳴らし続けたり、爆音のラジカセを担いだり……。とにかく大きな音でアルワッサの叫びを聞こえにくくしようといった対策法だ。イヤホン以上の効果は望めないが、楽しいラストシーンが生まれるかもしれない！

職員がいる場合

何らかの理由で受付の職員がこの場にいる場合、彼はアルワッサを見たことで狂気に陥り、叫びながら今芽生えた暴力衝動を探索者におつげようとしてくる。

STR 50 CON 50 SIZ 45 DEX 45 INT 55

APP 40 POW 40 EDU 80 耐久力 12

DB：+0 ビルド：0 移動：8 MP：8 幸運：50

近接戦闘 (格闘) 25% (12/5)、ダメージ1D3+DB

探索者の敗北条件

戦闘ラウンドを開始してから6ラウンド目が終了した時点でアルワッサの招来は完了する。

探索者は無謀に挑むか、逃げ出すかを選ぶことができる。よほど武力に自信がある探索者はアルワッサ（“新クトゥルフ神話TRPG マレウス・モンスターロム Vol. 2 神格編”37ページ参照）との対決を試みてもよいが、基本的には蹂躪

されてしまうだろう。区外まで逃げ切れた場合、命は助かるが緑ヶ丘区の混沌は苛烈さを増して手をつけられないものとなり破滅する。そして、この混沌の被害はさらに範囲を広げていくかもしれない。

Conclusion 13. 結末

赤崎を無力化すると音楽ホールに静寂が訪れる。招来されかけていたアルワッサはドロドロと溶けたかと思えばすぐに泡立ち、悪臭を放ちながら蒸発して消える。探索者の手によって最悪の結末を回避することが成功したのだ！

事件が解決しても緑ヶ丘区の治安はすぐには戻らない。心と身体に強い負担がかかった区民たちが元の生活に戻るためには、長い時間とメンタルケアが必要だ。それでもいつかはきっと、探索者が救ったこの緑ヶ丘を笑顔で歩けるようになることは間違いないだろう。

アルワッサの影響をいちばん強く受けていた赤崎はしばらく入院生活が続くだろう。探索者が面会に行けばずっとうつむいて足元を見ながら謝罪と感謝の言葉を言う。彼とこの先どう付き合っていくかは探索者の自由だ。

スクリマイズを破壊していない場合、この呪物をどうするかも探索者に委ねられる。もしも探索者がこういった呪物に興味があるならば、バックストーリーのアーティファクトの欄にスクリマイズの名を刻むのもよいだろう。

報酬

アルワッサの招来を阻止した探索者は3D6正気度ポイントを獲得する。また、赤崎が生存していた場合はさらに+1D6正気度ポイントを獲得する。

スクリマイズ、声なき叫びを はらむギター

このエレクトリック・ギターに鳴らした音にはアルワッサの汚れた叫びが含まれている。

弾き手がこのギターを使い込めば使い込むほどアルワッサの叫びは強くなる。最初は近くで聞いた人間の正気度を0/1D2ポイント削る程度だが、使い込めば1.6km以内にいる人間の正気度を1D6ポイント、その音を1時間聞き続ける度に1D2正気度ポイントを失わせるほど強力になる。

また、アルワッサに信奉者として認められれば、力を与えられ、1D2/1D6正気度ポイントを失う。さらに新月の夜であれば演奏によってアルワッサを招来することができる。